

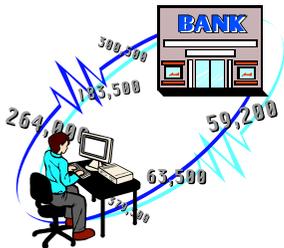


グローバル人材育成に関する 基本方針

グローバルな時代と状況を洞察する力を持ち、
国と地域で活躍する中核的人材の育成

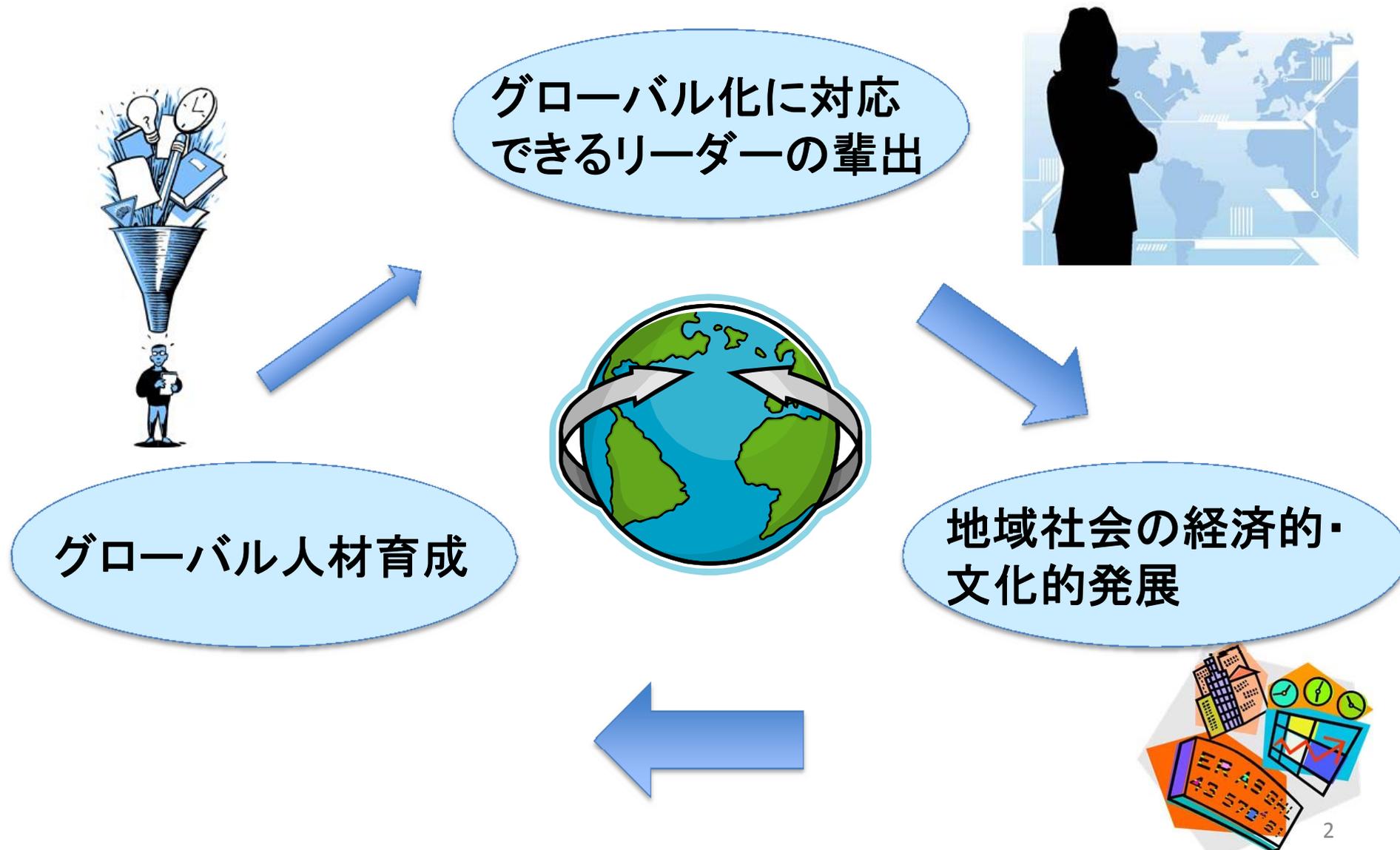


経済、行政、医療・福祉、モノづくり、教育、文化、環境等のあらゆる分野で活躍



国際化対応能力、洞察力を持ち、気概にあふれ、グローバルに活躍する人材育成を目指す

人材育成のパラダイム転換



全学の専門教育体制とグローバル教育の両立

各学部の専門教育



グローバル教育

学部別留学制度・
学部別研修制度の実施

各学部の体系的な専門知識とグローバルな社会を洞察する
知を総合するカリキュラムの構築

全体の底上げと先導グループの重層構造

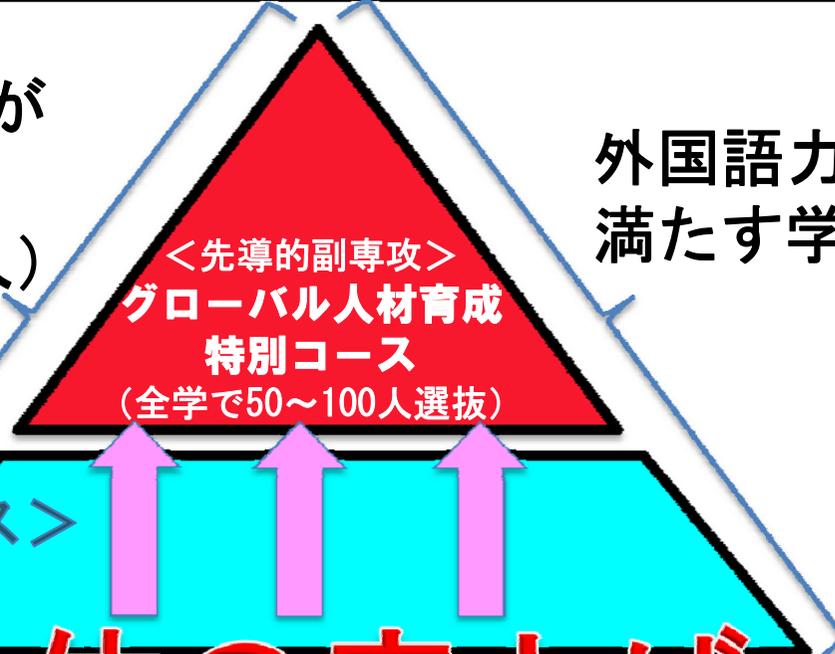
平成28年度:1学年の15% (350人) が
グローバル対応能力を修得する

1学年の10%の学生が
(230人) 海外留学
(H23年度実績107人)

外国語力スタンダードを
満たす学生数 (240人)



<一般コース>



<先導的副専攻>
グローバル人材育成
特別コース
(全学で50~100人選抜)

全体の底上げ

<一般コース>

海外留学制度の拡充
全体的な英語学習時間の倍増
ソーシャルラーニングスペースの拡充

グローバル人材育成特別コースの独創的教育方針

(1) EAP (English Academic Program) による実践的英語教育の徹底

- 20時間／週の実践的英語トレーニング

- プレイスメントテスト(入学時のTOEIC IP)によるクラス分け



TOEFL iBT89点の達成

英語4技能(読む・聞く・書く・話す)のバランスのよい育成

(2) 海外留学の義務化

- 留学前教育の徹底、海外語学研修の拡充

- 学部対応型:最長一年の留学を義務化、海外大学での単位取得

(3) 国際学都連繋 中での留学と国際インターンシップ

- 欧米とアジアの学都形成への参加

- 拠点校での日本語・日本文化

 - に関する講義の参加・実践 (**SEND**)

- まちづくりの視察・行事への参加



(4) 独自のカリキュラムによる**異文化理解・アイデンティティー形成**

1. 英語による異文化理解の講義と研修

2. 少人数によるアクティブラーニング

3. 英語による国際教養と専門科目

4. 地域文化、日本文化の実践的学習を通じた

アイデンティティー形成(大原美術館、瀬戸内国際芸術祭等の地域のアート活動、閑谷学校での実習、曹源寺での禅修行等を含めた日本語による高度な内容)



(5) **国際的共同対話生活空間**の構築

○イングリッシュ・カフェの拡充

○寮や食堂での国際交流の場の充実

○英語による正課外活動支援



(6) 厳格な成績管理

○GPAによる厳格な成績管理、留学前の成績相談・指導の徹底

EAP (English Academic Program) による実践的英語教育の徹底

TOEFL iBT89点 (50人以上) の達成



グローバル人材育成特別コースの選抜者

読む

聞く

書く

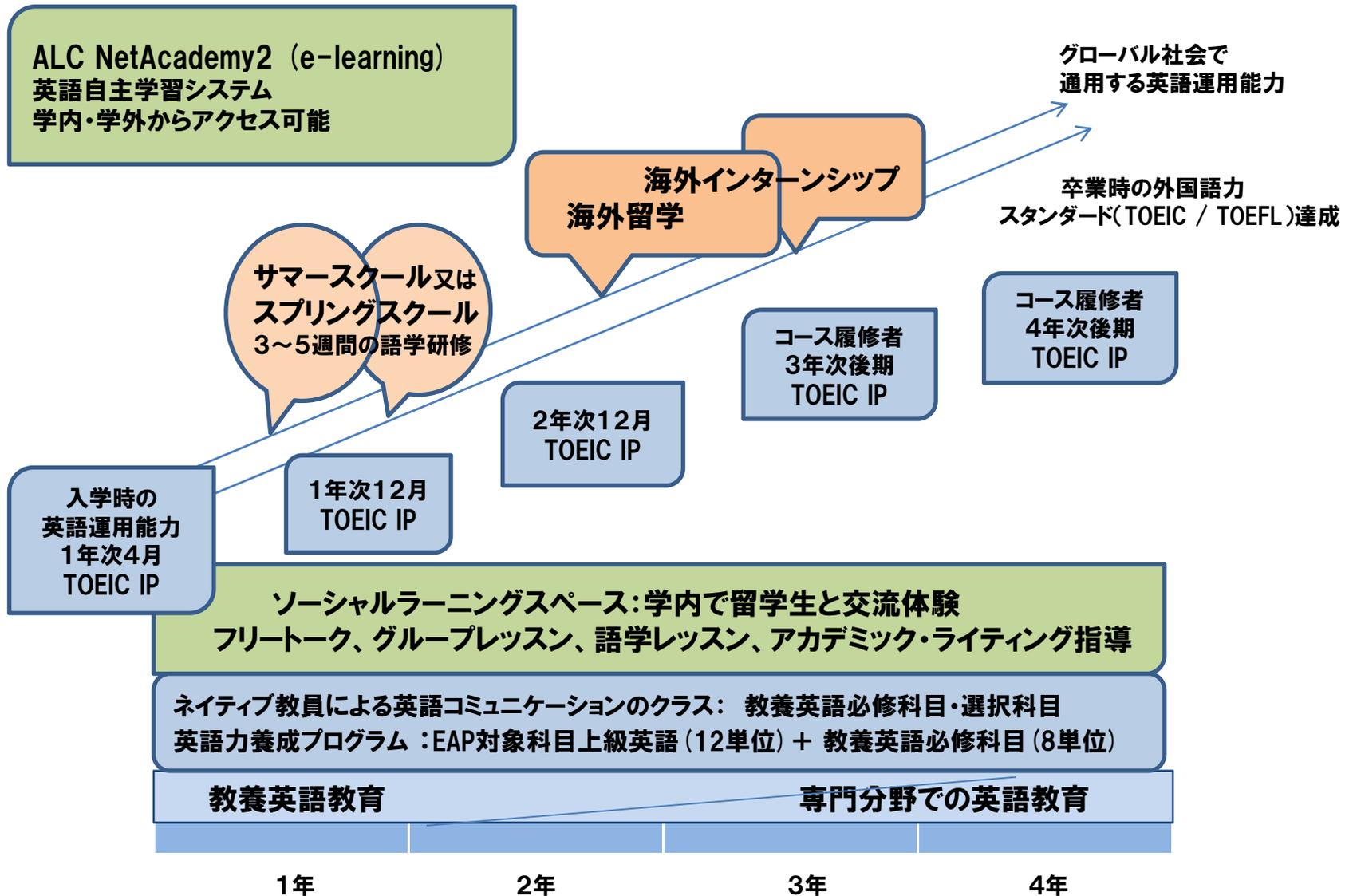
話す

週20時間の実践英語トレーニングと4技能のバランスよい育成

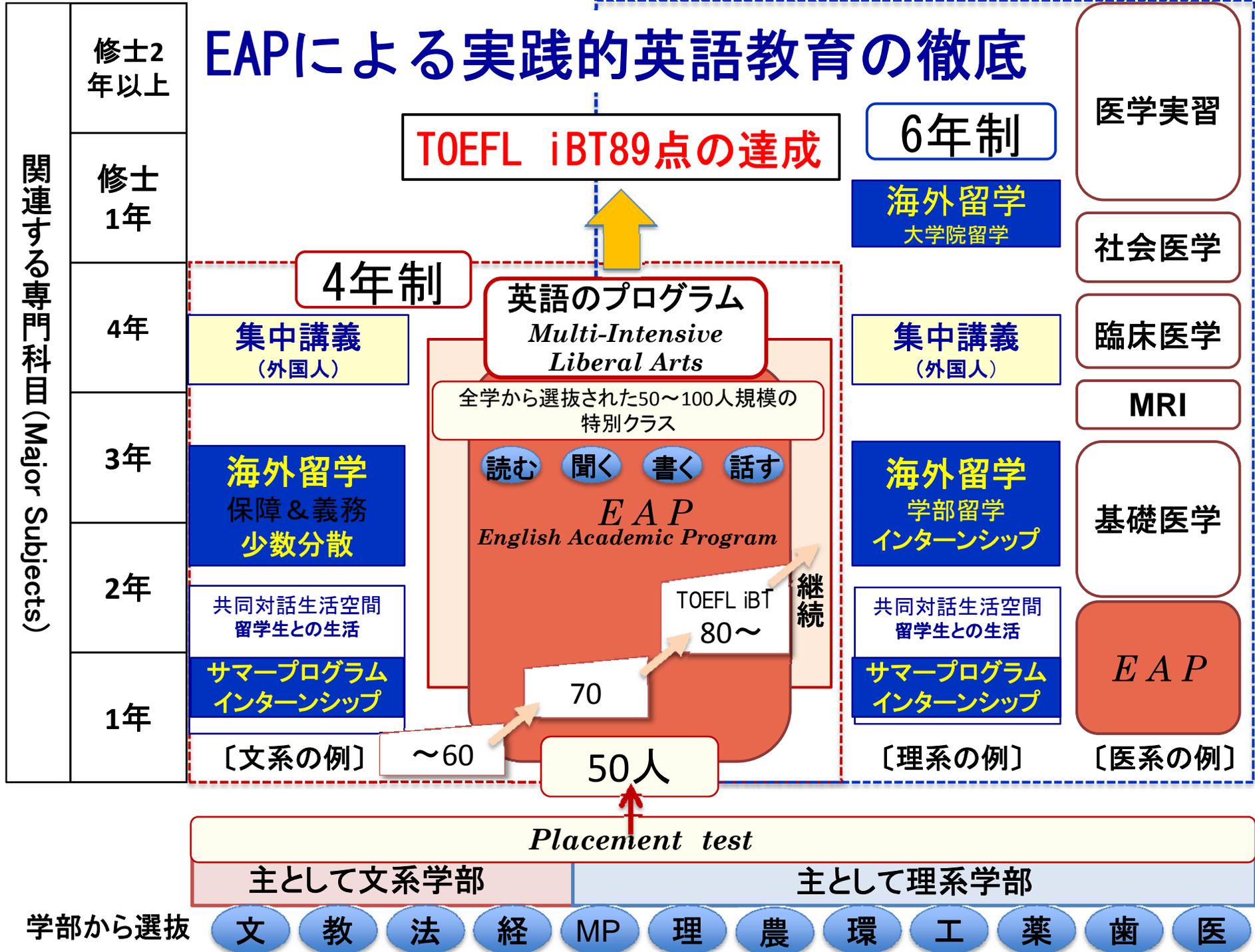


プレイスメントテスト (入学時のTOEIC IP) によるクラス分け

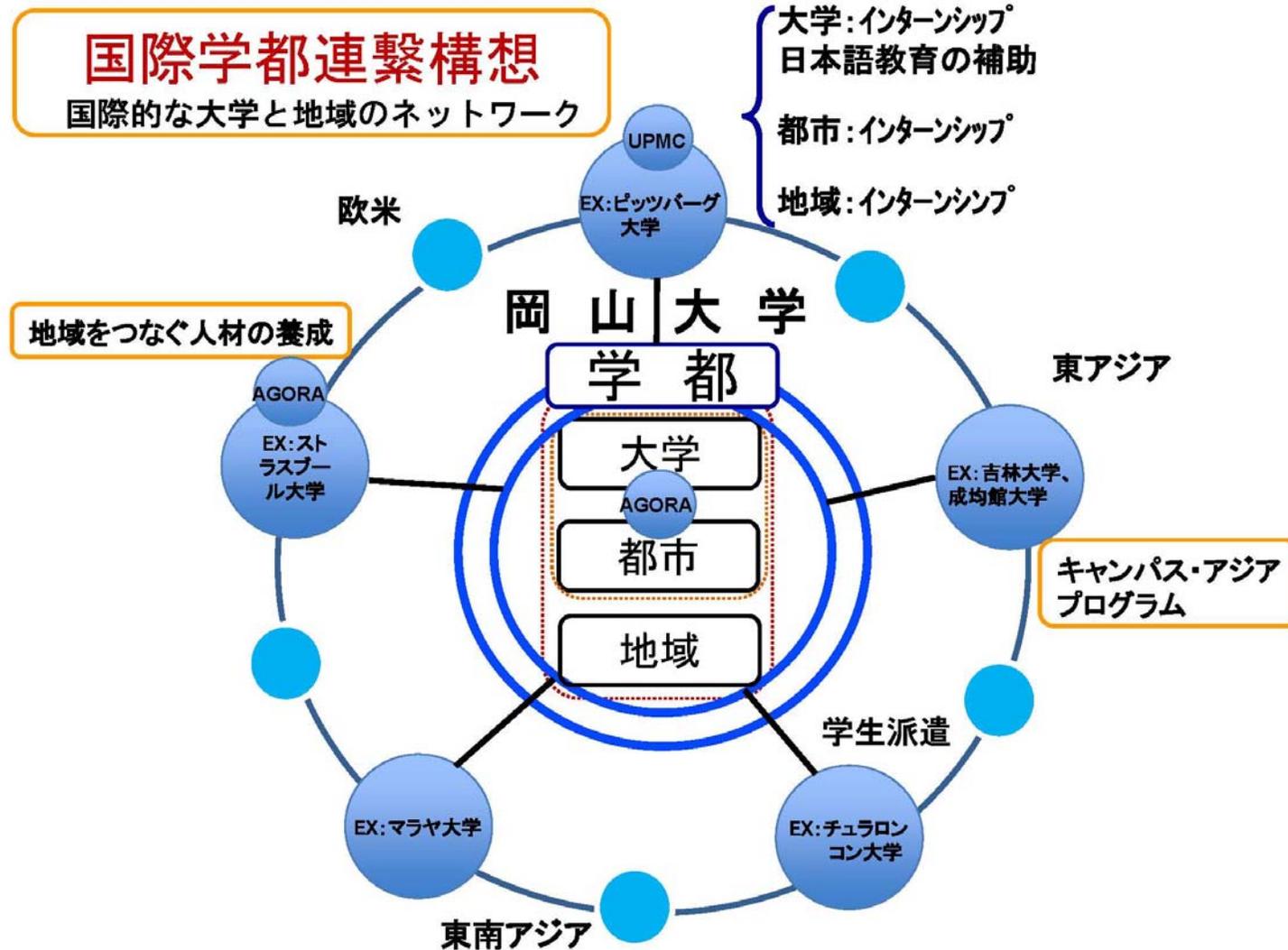
グローバル人材育成特別コース英語力養成プログラム (EAP) (English Academic Program)



EAPによる実践的英語教育の徹底



国際学都連繋の中での国際インターンシップ



国際学都連繋の中での留学と国際インターンシップ、欧米とアジアの学都形成への参加
 拠点校での日本語・日本文化に関する講義の参加・実践 (SEND)、まちづくりの視察・行事への参加

海外留学をする学生へのサポート

○相談業務

専任教員を配置し、留学に向けた準備・計画作成の支援を行う。

○ラーニングアグリーメント

修得可能な科目、帰国後の単位認定に関する基準や手続等の情報を事前に提供し、学生が納得して参加できるよう「ラーニングアグリーメント」を整備する。



○奨学金

新たな奨学金制度を創設予定



○就職支援

海外インターンシップへの参加を積極的に推奨するとともに、留学経験を生かしたキャリアパスについて指導する。

グローバル人材育成院について(案)

